



月刊部員新聞

2008年9月
第34号

編集・発行 Unit

トレーニング施設の設立

私のように特定の場所を持たずに、活動しているトレーニングコーチは全国でどのくらいいるのでしょうか。

通常はチームの学校にある施設や公園などを利用して指導を行っています。器材や活動時間など様々な事情があり、充分にトレーニング指導が行えない場合もあります。

そのような時にふと「自分の施設があったらいいな。」と思うこともありました。

今回はそれを具現化しようとして走り回った顛末記です。

① コンセプト

まずは全ての軸となるコンセプトを「競技者のためのトレーニング施設」としました。

競技者とは必ずしもトップレベルということではなく、自分が競技者であると自覚している人でした。

また体力トレーニングは種目を問わずに必要なものであるということで、種目も限定はしませんでした。

これらは現在行っていることと同様です。

年齢は通常フィットネスクラブに入れない小学校高学年以上を対象として考えました。

そして運動能力を数値化できるような測定機器も導入し、測定↓フィードバック↓トレーニング↓測定という現在おろそかにされがちな当たり前のことが、できるように計画をしました。

トレーニングは1対1で1回90分として、シーズンやスケジュールに併せて密度の濃いトレーニングができるようにしました。

② 場所

当初は走行中の接地時間やピッチなどが測定できる機器の導入も考えていたので、スタートダッシュが充分にできる広さを考えていました。

しかし金額的に難しく、削除せざるを得ませんでした。

それをふまえて20件近くの物件を内覧した結果、18m×8m、駐車場付きのコンビニエンスストアの跡地が最終候補に残りました。

近隣には巨大団地もあり、付近の人口構成も極端な偏りもなかったため、場所としては申し分ありませんでした。

賃料も広さ、場所の割には格安で非常にお得な物件でした。

③ 必要機材・備品

レジスタンスマシンはフィットネスクラブのような単関節のマシンの導入ではなく、空気圧も従来のウエイトスタックも利用できるフリーウエイトの機材とフランクショナルトレーナー、それにトレットミルとエアロバイク、ローイングエルゴメータと至つてシンプルな構成を考えました。

これはトレーニングソフトを考慮した結果、最低限これらがあれば考えているものができると考えたからです。もつと機材としては欲しいと思うものもありましたが、金額の問題もありました。それがないでも工夫次第でどうにでもなるかと考えたからです。

その他の備品としては日本にはあまりない運動能力診断システムや、血中乳酸測定器、ミラーやビデオ、それを映すモニター、ダンベルやバランスボールにストレッチポール、ストレッチマットなどトレーニングに必要なもの、さらに書架や机、PCなどの事務用品なども考慮しなければなりません。

これらをふまえて

内装や看板、備品関連など約15社からの頂いた見積もりと事業計画を綿密に練り上げ、地元の信用金庫を紹介してもらいました。

担当していただいた方もトレーニング施設の事業計画は初めてということでしたので、いろいろと起業コンサルタントの方などと相談させていただきました。もうすこし計画を煮詰めてみましょうということになりました。

その後起業コンサルタントを含めて話をした中で、「集客数の根拠は何か。」という事になりました。

正直な話、事業計画書に載せた集客数は根拠のない数値でした。2km近隣を対象年齢層が約20万人あるうち、きちんとしたトレーニングを行いたいと考えている人は相当数いるのではないかと。ふつうのフィットネスクラブでも2,500〜3,000人の会員がいることを考えると、延べ人数で周辺人口の0.5%ほどでしたので、無理な数値ではないのではないかと考えていたのです。

しかしコンサルタントはこの根拠を示すことができるマーケティングができるなければ、事業の継続は難しいということでした。

そのときコンサルタントは本当に好き勝手なことを言っている人種だなと改めて思いましたが、起業事業を何件も見ているプロですから、後から考えてみ

るとそれができなければ事業として成り立たないのだと思うことになりました。

需要がないところに事業を興しても継続は難しいですからね。

結局のところ

今回の案件は残念ながら見送りとなりました。信用金庫側が希望額の6割ぐらいいまだしか融資ができないということが決定的でした。

しかしこれを機にもう一度計画を練り直し、いずれは自分の場所を競技者を指導できる様になればと思います。

それまでこの仕事を続けることができればですが・・・皆様今後とも宜しくお願いいたします。

Unit代表 澤野 博(さわの ひろし)

日本体育大学卒。社会人経験を経て欧州へ留学。乳酸を中心としてトレーニングを幅広く学ぶ。帰国後、部員となって競技者を支えるという意味で「Unit」を設立。競技種目、競技レベルを問わずトレーニング指導を中心に活動。医療系国家資格の臨床検査技師の資格を持つ異色のトレーニングコーチ。

ご意見、ご要望、仕事依頼、お問い合わせは下記まで。
0422-34-5055 (Fax 兼用)、090-1999-2845 または sawano@team-unit.com